

# 絵画修復家の アトリエから

加賀優記子……絵画修復家

17

新型コロナウイルスが封じ込められて、本当に良かったですね。実を言うと私はあの肺炎が流行して話題になる前に、これはかなりやばい状況になるのではないかと気がしてネットサーフィンしてコロナウイルスを唯一カットすると言うマスクの存在を知り、いち早く何枚か入手しておりました。(だけれど、新品のまま棚の上のつかっていません。ヨカッタ、ヨカッタ。)

それにしても、インターネットはやはりとても役に立つものですね。このようなマスクを作っている会社の存在もすぐわかったし、論文を書く時でも稀少な資料も居ながらにして入手できる。そのうち、3Dバーチャルで盛り上げマチュエールもリアルな油絵の通信講座なんていうのもアリかも

しれない。……だけど、それではオイルの匂いもしないし筆とキャンバスのこすれる感触も無い。それは、とても物足りない事なのかもしれません……。

私は、絵を描くのは、肉体と(つまり感触を感じる腕や指、もしくはは体全体)頭脳が戯れあつたり、せめぎあつたり、爆発しあつたりして描くものだと信じているアナログ人間です。だって、人間は、生まれてこのかた赤ん坊の時からずっと物質に触れることで成長し、芸術を表現するという行為も結局「触れ、確かめ、体で表現する」事を本能的に求めている事に他ならないと思う。

何故、このようなことを書き出したかと言うと、インターネットでお買い物もできる昨今、しかし物を買う、まして画材を買うと言う行為は、大変五感を使うものだと言う事を思い出したからなのです。

キャンバスの表面は撫でて布地や下地の良し悪しを確かめる、少し匂ってくる乾性油の芳香、筆の穂先の感触、絵の具チューブの固さ。

そしてもう一つ使う感覚は人間対人間という関係だ。私は何時もヨーロッパに行つて思うのだけれど、ヨーロッパの画材屋では、必ずお店の人との対話がある。パリでボザールに通っていた時は何時も決まってセーヌ河岸のセヌリエで画材を買っていた。あそこは特に昔ながらの伝統の売り方



ボザール学生時に描いていたセーヌ河岸風車

なのだろうか、一人一人のお客に白衣を来た売場の人たちが長い間つききりで接してゆく。

私などははじめぜんぜんフランス語を離せないで何か買おうとしてもどきまぎしてもうあきらめて帰っちゃおうかと思つたものだ。……でも、奥にある、古めかしい大きな木製の戸棚の引出しを開けてみると気が済まない。

混んでいるカウンターを横目に、そうつと引出しを開けてみる。中にはぶんと匂う膠が。板状のトタン膠、粉末のウサギ膠。

あつちの引出しにはきれいな顔料の袋。一番奥の廊下にはアルシユの立派な紙。半分だつて買えそうに無いほど高価で、すごい手ごたえ。エーとその隣には、キャンバスだ、上品な光沢のベルギー製の麻布だ……。と、隅っこの方でそつとチョットだけ触りまくっている私に、「ボンジュ、

また今日も来たねえ。」振り返ると、いつもの白衣を来たお兄さんがクスタスつと立っている。今日は何が欲しいの?と優しくゆっくりと聞かれる。でも、答えられない。

うーうーうー、とまるでヘレン・ケラーのように手振り身振りで欲しいものを伝える。お兄さんは辛抱強く、大真面目な顔をして、(しかし噴出しそうになるのを押さえているのがよく判る、)そして、最後にはいつも私がそつと手を伸ばして

いたものについて説明してくれる。どうやって

作られたのか、どうやって描いたら効果的か。そうして2年間セヌリエには入り浸つて、その後ルーブルで働くようになり、対岸なのに全く行く機会がなくなつてしまった。

5年ぐらいが経つた或る日、久しぶりに店に立ち寄つてみた。相変わらずお客が大勢居て、白衣の人たちが忙しそうにしている。カウンターの向こうにお兄さんが居た。あ、と私を見つけて少し高潮した顔をしてすつ飛んできた。

「きみ! きみ! 日本に帰つたの? 随分長い間来なかつたんだね!」

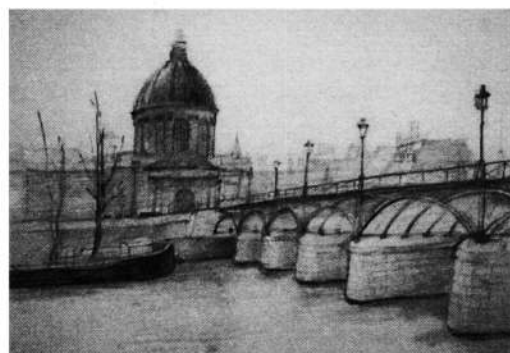
「ええ、私はもう学生じゃなくなつたの。お向かいの美術館で働いているのです。でも今でも外で時々絵も描いているのよ。」

私がそう答えると、ぴよん、と飛び上がつてビツクリした。

「何だキミ! すごくすらすらと話すじゃないか! みんな見てくれ、彼女だよ、あの子だよ、なんだかとても話せるようになったんだよ!」

そうして、レジのオバサンが1割引にしてくれたのは言うまでも無い。もう、ボザールの学生の特典は無いのに……。

だから私はパリに行くに必ずセヌリエに立ち寄る。今はおすおすとはなく、かなり元氣良くボンジュー!つて。こうしてお得意様は作られる。人間関係もやっぱりアナログがいいですネ。



かがゆきこ●絵画修復家。大学卒業後、絵画の古典技法を学ぶためにパリに留学。ルーブル美術館の絵画修復員を経て、現在は鶴沼で修復工房を主宰。